

事業承継でつなぐ、まちの暮らし

■お問い合わせ
総務企画課 企画調整係 ☎4125111 内線227
しもかわ地域振興機構(通称・しもかわ財団)
☎4135111

東京のIT企業経営から、
下川町の豆腐屋・肉屋へ



音楽とITを経て、下川町へ

香川県出身の大東さんは、高校卒業後にアメリカへ渡り、8年間にわたり音楽活動を続けました。帰国後は音楽を続けながら働ける仕事として、IT業界へ。持ち前の行動力で知識を身につけ、新規事業の立ち上げや海外展開、企業経

営など幅広い経験を重ねてきました。現在も東京の会社経営や地方新聞社の事業支援などに携わっています。

そんな大東さんが下川町に移り住んだきっかけは、リモートワークの広がり、子どもを自然豊かな場所ですてたいという思いでした。「どこにいても仕事はできる」と感じていた中で、家族の後押しもあり、下川での暮らしが始まりました。実際に住んでみると、人と人のつながりや地域で起きていることが、東京にいた時よりもずっと身近に感じられるようになったとい

豆腐店の承継が転機に

転機となったのは、町内の豆腐店の事業承継の話でした。もともとは「まちの中にある店を残したい」という思いが先にあり、豆腐そのものに強いこだわりがあったわけではありませんが、先代から「今は大量生産の時代。手づくりの豆腐は時代遅れだから

ら、店舗を別のことに使った方がよい」と聞かされた瞬間、大東さんの気持ちは固まりました。「誰でもできる効率の良いことではなく、手間がかかっても、人と違うことにこそ価値がある」と思ったと振り返ります。

承継を決めてからは、朝5時半から先代と一緒に豆腐づくりに励みました。承継に消極的だと思った先代が、親身になって製法を教えてくれたことがうれしく、その思いも含めて受け継いでいきたいと感じたそうです。新しい屋号に変えた今も、店先には先代の歴史を伝える看板を残しています。

2つの店を同時に引き継ぐ

さらにほぼ同じ時期、精肉店の承継の話も舞い込みました。町にとつて大切な店が続いてなくなるかもしれない——そんな危機感の中で、大東さんは「資金面やIT活用、情報発信まで含めて、自分だからできることがある」と考え、2つの店を同時に引き継ぐ決断をし

ます。地域おこし協力隊の任期を終えた渋谷さんも加わり、現在は二人三脚で店を支えています。

豆腐店では製造技術の習得、精肉店では仕入れや加工、在庫管理、衛生管理、設備更新によるコスト削減など、それぞれ異なる苦労がありました。それでも大東さんは、「ITも食品製造も根本は同じ。お客さんが何を求めているかを想像し、価値を届けることが大事」と話します。店頭でお客様と直接言葉を交わし、その反応を感じられることに、今の仕事ならではのやりがいを感じているそうです。

地域の食と暮らしを支える

今後は、おからを活用した新たな商品づくりや、町内で資源として活かしきれない鹿肉を食卓へ届ける仕組みづくりにも取り組みたい考えです。さらに、別の店舗スペースを活用し、地域の食材を気軽に楽しめる場や、子どもたちが立ち



寄れる居場所づくりも構想しています。

大東さんは「事業承継は継ぐ人だけが頑張るものではなく、地域みんなで支えることが大切」と話します。まちの店が続いていくことは、暮らしを支えるだけでなく、地域の景観やにぎわいをつくることにもつながります。

「キラキラした特別な店ではなく、下川の暮らしに合った食材や体験を届けたい。気軽に立ち寄って、店員との会話も楽しんでもらえたらうれしいです」

事業を受け継ぐことは、単に店を残すことではありません。そこに積み重ねられてきた歴史や人の思い、そしてこれからの地域の暮らしを、次の世代へつないでいく営みでもあります。

憧れの北海道で、観光客から暮らす人へ。野口富生さん

下川でのリアルな暮らしぶりを町内の方にお話ししていただくコーナー。今月は、仕事や観光で北海道中を旅をした後、下川町に拠点を据えた野口富生さんです。



北海道には、大学時代から何度も訪れていました。社会人になってからも出張で札幌を中心に、50回以上は道内に来て、あちこち回りましたね。特に会社員として最後の出張になった、旭川、北見、帯広、釧路エリアを回った際、北海道内での暮らしへ興味を持ち、短期滞在の観光客としてではなく住民として北海道の魅力を経験したいと思うようになりまし。そして新型コロナウイルスの蔓延をきっかけに出張がなくなり、せっかくだから北海道に移り

住んで暮らせないか考え始めました。札幌は、関東の住環境と似ていて住みやすいだろうなとは思いましたが、自然の近い地域で暮らしたかった。新しいことにチャレンジしたくて、札幌以外で住む場所を探し始め、まずは根室・新得町で2週間ほど移住体験をしてみました。自宅で仕事をするため、そういう生活スタイルが可能な自治体を探し続け、道内の20近い市町村が集まるオンラインイベントに参加した際、下川町を知りました。地域の雰囲気や生活スタイルの条件を聞き、実際に町内を訪問した後、2023年9月に移住しました。

はじめは人間関係がうまく構築できるかちよつとした不安はありましたが、暮らし始めてからは人のつながりがしっかりあるなと思います。地元の人たちが移住してきた人たちや、ネットワークを作ってきたからだと思えます。住まいに選んだ

一の橋では毎朝空の色や窓を開けた時のにおい、四季の移ろいを感じられる環境に満足しています。都会に住んでいた時よりも、はるかに情報量が多いと感じますね。

下川では困っても助けられる人がいたり、周りの真似をしたら解決したりすること、もたくさんあり、未経験のこととがあっても暮らしやすいと感じます。近所に住んでいる方が家庭菜園のコツを教えてください、春の山菜や秋のきのこの採集に連れて行ってもらうたり。下川に住み始めてから初挑戦していることはいくつかありますが、どれも楽しいです。



SHIMOKAWA-JIN
しもかわ人
名鑑
MEIKAN